

## 伊東市総合教育会議 会議録

- 1 日 時 令和7年4月23日（水） 午後3時30分～午後4時20分
- 2 場 所 伊東市役所高層棟7階特別会議室
- 3 出席者 伊東市長 小野 達也 教育長 高橋 雄幸  
教育委員 遠山 泰範 教育委員 辻 恵  
教育委員 北岡 ゆうこ 教育委員 秋山 佳輝
- 4 事務局 企画部長 近持 剛史 教育部長 西川 豪紀  
次長兼教育総務課長 杉山 宏生 企画課長 菊地 貴臣  
教育指導課長 森田 まり 幼児教育課長 鈴木 慎一  
生涯学習課長 山下 匡弘  
教育総務課課長補佐 石川 貴士  
教育総務課課長補佐 二宮 悠  
教育総務課課長補佐 掬川 宗範

### 5 会議の経過

**事務局**：定刻となったので始める。本日の伊東市総合教育会議は、午後4時30分までを予定している。

開会に当たり、市長から御挨拶申し上げる。

**市長**：本日は忙しい中参集いただき感謝申し上げます。

本日の総合教育会議の議題は、伊東市立小・中学校の規模及び配置の適正化に向けた基本方針（後期方針）（案）についてである。令和元年8月に策定した基本方針に基づき、令和3年4月に川奈小学校と南小学校、令和5年4月には東小学校、西小学校、旭小学校を統合してきた。この基本方針に基づく、後期方針を策定するため、本日協議することにした。

教育問題懇話会の答申に基づき作成された後期方針の案においては、伊東市

が夢と希望を育む学校の実現を図るために、各地区の具体的方策が記載されている。本日は、各地区の具体的方策について協議をし、市としての方向性を決定したいと思う。

私も伊東市の未来を担う子供たちのため、子供の利益を中心とした、誰ひとり取り残さない教育の実現に努めていく。引き続きの御協力をお願い申し上げ、私からの挨拶に代えさせていただく。

**事務局**：続いて教育長から御挨拶申し上げます。

**教育長**：本日は御多用の中、小野市長、教育委員の皆様にご出席いただき、感謝申し上げます。

市長の御挨拶にもあったとおり、本日の総合教育会議においては、伊東市立小中学校の規模及び配置の適正化に向けた基本方針（後期方針）（案）についてを議題とさせていただいた。後期方針（案）については、3月の教育委員会定例会において、細かい内容まで時間をかけて協議をしていただいた。また、本日の総合教育会議の前に開催した教育委員会の定例会においても、確認、協議をしてきた。

教育委員会としては、子供たちに対して将来にわたってより良い教育環境を提供するために、小中学校の規模及び配置の適正化をより丁寧に、かつ慎重に進めていきたいと思っている。子供たちの気持ちを第一に考え、また、子供たちの安全安心、適正な教育環境実現のために、本日は市と教育委員会が更なる連携の場となるようお願い申し上げます。

**事務局**：これより議事の進行は市長にお願いする。本日傍聴を希望される方が4名いるので、傍聴の許可の手続きを冒頭をお願いしたい。

**市長**：ただいまから伊東市総合教育会議を開会する。

傍聴を希望される方が4名いる。傍聴を許可してよろしいか。

( 異議なし )

**市長**：傍聴を許可することとし、傍聴人に入室していただく。

( 傍聴人 入室・着席 )

**市長**：議事に入る前に、事務局から、総合教育会議についての説明をお願いしたい。

**事務局**：総合教育会議は、市長と教育委員会という対等な執行機関同士の協議調整の場であり、その役割としては主に3点ある。

1点目は教育行政の大綱の策定、2点目は教育の条件整備等の重点的に講ずべき施策の協議、3点目は児童・生徒等の生命・身体の保護等緊急の場合に講ずべき施策の協議とされている。

本日は、2点目の「教育の条件整備等の施策」に関連し、「伊東市立小・中学校の規模及び配置の適正化に向けた基本方針（後期方針）（案）」について協議をお願いしたい。

**市長**：それでは協議に入る。

伊東市立小・中学校の規模及び配置の適正化に向けた基本方針（後期方針）（案）について協議を行う。教育委員の皆様には、3月、4月の教育委員会定例会において、時間をかけて協議していただいたところである。本日は、これまでの協議を踏まえて、御意見を伺いたい。

まず、事務局から説明をお願いしたい。

**杉山次長兼教育総務課長**：「伊東市立小・中学校の規模及び配置の適正化に向けた基本方針（後期方針）（案）」について」を説明する。

伊東市教育委員会では、令和元年8月に、「伊東市立小・中学校の規模及び配置の適正化に向けた基本方針」において、様々な経験の中で「変化に向き合う力」を身に付けることで、受け身でなく、主体的に向き合って関わり合い、

その過程を通して自らの可能性を發揮していけるようになってもらいたいという考えのもと、学校再編を進めてきた。この基本方針の後期方針が未着手であったことから、令和6年6月27日に教育問題懇話会に「伊東市教育委員会が目指す学校像「夢と希望を育む学校像」の実現に向けた適正な教育環境の在り方について」具体的方策について諮問し、令和7年2月20日に教育問題懇話会からの答申を受けた。

お配りした後期方針（案）は、この答申を踏まえ作成しているが、これまでも教育委員会では協議してきた中、本日の総合教育会議により、教育委員会や伊東市として今後どのように学校規模及び配置のあり方再編を考えていくか、市民の皆様にお示しする素案となり、協議・修正をかけていく。

資料の説明については、すでにお目通しをいただいていることから、簡略とさせていただきます。

資料1ページは、これまでの経過を示している。資料2ページから資料6ページまでは、今後の本市の児童生徒数の見通し、さらには学校区を合わせた、市内を4地区、宇佐美地区、旧市街地地区、市街地近郊の住宅地区、対島地区の見通しについて記載している。その見通しを踏まえ、資料8ページから11ページまで各地区の具体的方策を記載している。資料11ページから13ページまでには、後期方針を進めるに当たっての配慮事項を記載している。配慮事項としては、通学に係ること、地域との連携、さらなる先を見据えた中長期的な視点、新たな学びの場所の確保など、策定後にも取り組むべき点を記載している。

以上で、事務局からの説明を終了する。

**市長：**それでは、教育委員の皆様のご意見をお伺いしたい。

まずは、それぞれの地区の再編についてである。委員の皆様は、おおむね賛

成と認識しているが、改めて意見を伺いたい。

**遠山委員**：伊東市はかなり広域になるので、ある程度の区切りを持って検討しなければならないと思っている。宇佐美地区、旧市街地地区、対島地区、市街地近郊地区、この4つに分けて考えていくことについては、このとおりでよいと思っている。

ただ、その中でも地域ごとのまとまりが多く、しっかりしている場所もあると思うので、その地域の方々の意見もしっかり聞きながら、全員が100%は難しいかもしれないが、多くの方が気持ちよく次の学校に通っていけるような方向で進んでいければありがたいと思っている。

**辻委員**：子供たちが一生懸命取り組んでいる取組など、それぞれの学校で色々な特色があると思う。本来ならば、自分の住んでいる地域に自分が行ける学校があること、本当はこれが理想的である。ただ現状、子供の数が急速に減り続けていることは明確であるので、この先、再編、統合を考えていかざるを得ない状況にあると思う。その点に関して、地区ごとで分けることは、一番わかりやすく自然的だと思う。

一番大切なのは、再編や統合を考える時に、そこで生じるであろう問題をまず全て洗い出して、そこを解決することを優先すべきだと思う。子供たちが安全に学校に通えること、平等に学べること、これが一番だと思っている。緊急時や災害時の対応はどうかや、通学にお金がかかるのであれば、負担軽減ではなく子供のために負担してあげるなど、色々な問題があると思う。その問題を洗い出して、先にそこを解決していくことが大切だと思っている。

また、保護者の方は、これからどうなるのか、どこに通うのか、どうやって通えばいいのかと、不安に思うことが増えてくると思うので、保護者への説明も同時進行で、詳しく丁寧に行うことが大事だと思う。

**北岡委員**：地区を4つに分かれることについては、特に問題はないとは思いますが、主役は子供なので、子供がただ通うだけではなく、そこで濃い学びや思い出に残る体験など、そういう環境を作り出すこと、大きくなった時に、伊東のあの学校に行ったということが心と記憶に残るような学校の環境や仕組み作りが大事だと思っている。

もちろん、そのためには、地域の方のサポートや他の市民の方々の応援なども大事だと思う。大変だが、顔と顔を合わせて丁寧に意見を出し合い相談することが一番重要だと思っている。今後の進め方はすごく難しくとは思いますが、子供たちのために色々な機会を使って相談していけたらいいと思っている。

**秋山委員**：子供の数が年々減少していく中で、いわゆる複式学級とならず、学年ごとのクラス替えができる適正な配置でいくと、統合はやむを得ないと思う。

統合を進めていく場合、色々な通学方法、スクールバス等の対応もあると思うが、現在は小中学校が市内に一定数あるので、子供の色々な通学の観点から、若い家族は市内にバランスよく居住されていると思う。これが統合することによって、地域のコミュニティ、色々な子供と地域との繋がりや根底が変わるような、居住の変化も起こると思う。そういったことが、子供たちの学校生活もさることながら、地域との繋がりによって形成できる人間形成、ひいては地域とのバランスが、伊東市の色々な全体像を変えることにも繋がりにかぬないと思っている。そういった部分を考えながら、丁寧に進めていきたいと思う。小野市長にもそういった部分をお考えいただければ幸いである。

**市長**：次にこの後期方針（案）を拝見して、特に気になっていること3つ挙げさせていただくが、それについての意見をいただきたいと思う。

1点目は、池小学校の小規模特認校について、2点目は、対島地区の小中一貫校の場所を旧城ヶ崎分校とすることについて、3点目は、宇佐美地区と対島

地区の再編時期の重複について、お伺いしたい。3点とも大事なことだと思っており、教育委員から意見を伺いたいと思っている。

**遠山委員**：まず、池小学校のことだが、特性が素晴らしいので、ぜひ継続していただきたいという意見と同時に、人数的な部分はどうしても出てくるので、書いていただいているとおり、まずは継続の方向を保っていただきつつ、人数の方の推移を見ていただく。そして特性を生かして、池小学校で学びたい方がいらっしやると思う。それをもう少し広く周知していく、入学生のみならず、例えば今通っている学校に通いにくくなった何か事情があった時、市内にこういう学校があるからそちらにも通えるといった意味での1つの選択肢、受入れ先になっていく。色々な機能を小規模特認校として魅力の部分をうまく皆様に周知しながら、進めていただければありがたいと思っている。

次に、旧城ヶ崎分校は先日視察に伺わせていただいて、環境は素晴らしいと思った。大室山があつて、海そして大島が見えて、周りも木々に囲まれて、本当に素晴らしい環境の学校だから、ここで子供たちが学んでいけたらいいと、すごく魅力のある場所であるというのが第一印象だ。通学面での問題で、駐車スペースや乗降場所、送迎場所も非常に広いので、とても良いと思った。ただ、施設が広いという魅力と同時に、そこを維持管理していくコスト面を心配した。また、今ある施設をどう活用することにおいても、建替えや、取り壊して施設を少し小さくするであっても、かなりのコストと時間を要するのではないかということがある。せつかく手を入れるのであれば、学校という機能だけでなく、子供たちが今度そこを使う規模がどんどん狭まっていった中でも、防災や他の地域の方々が継続して利用していけるようなものを、他の色々な知見を持った方々のアイデアをいただいて一緒に考え、かなり丁寧に色々な意見を集約した上で、進めていただくのが望ましいと思った。

再編時期については優先順位をつけがたいところで、人間的にも時間を割けるかという中での話だと思うが、先ほどの学校の規模や人数を考えていく意味においては、今、富戸小学校が人数的には一番少なくなってきているので、対島地区の方が緊急だと思う。旧城ヶ崎高校を含めて、施設を新たにという中では、ハード面の問題の準備はかなり時間がかかってくる部分であるが、宇佐美の方が人数的には、今はまだ各学年、それから未就学の子供たちの人数があると思う。その候補地としては多分、宇佐美中、宇佐美小あたりのところになってくると思うが、どの程度手を入れるか、その辺のバランスが難しいと思っている。いずれにしても、学校が建ってからの年数を考えると、安全面のことを考慮して、少なからず手を入れるか、建て替えるかを、対島地区を含めて言い切れないところである。まずは、危険度であったり、人数的な部分など、それぞれの問題点の情報をもっと洗い出した上で、非常に大事な問題なので、もう少し時間をかけて判断することもありではないかと思っている。

**辻委員**：まず、池小学校の小規模特認校の指定だが、池小学校の取組は、本当に良いことをしていて、今の子供たちに経験させてあげたいことを継続してできている。こういう学校だから行ってみたい、ここなら通えそうという御家庭があるのであれば、ここは特認校として、継続してほしいと思う。入学児童の人数は減っているが、池小学校はこういうことをやっている、広くお知らせや周知を続けていただいて、池小学校の取組みをこのまま残してほしいと個人的に思っている。

次に、旧城ヶ崎分校のことだが、やはり通学である。生徒が通学をするのにどの子がどこから来るのか、すごく遠いところから来るかもしれない、その時にどうやって通学をするかなどの通学時の安全面や、敷地内の建物の安全面は、もう少し詳しく精査した方がいいと思う。現状で活用できるものがあるのか、

全く活用できないのか、改修すれば使えるのか、それに対してどのぐらいのコストがかかるのかということも細かく調査が必要かと思う。ただ、場所的には小中一貫校としての学校にする場合としては、活用はできると思う。

再編時期の重複については、どちらも簡単にいかないことである。色々なことを調べて、色々な問題を解決して、地域の方や保護者の協力を得て進めていかないといけないことだと思う。重複して進めるのはいかがかと思う。もちろん、人員や人の配置などもそうだが、たくさんの業務をこなさないといけない中で、同時進行はいかがなものかと思う。個人的には避けた方がいいと思うが、重複についても、まだまだ考えていかないといけない問題だと思う。

**北岡委員**：まず、池小学校の小規模特認校だが、先生が1人1人の子供と向き合える環境になる気はするので、そういういいところはできれば継続していった方がいいとは思っている。ただ、資料にも書いてあるように、今後の児童数の経過でどう変わるかはわからないが、いいところは残して、改善すべきところは改善する方法でいった方がいいと思っている。

旧城ヶ崎分校については、視察に行けなかったが、学校の設備等についての資料も拝見させていただいた。環境が良い学校だと、遊びやスポーツ、勉学にも励む気持ちが湧くと言ったら変だが、さらに前向きになるのではないかと思っている。ただ、子供や先生方の命を守るということもあり、建物を新しく作るのか、補強するだけでいいのかなどは、すごく細かく見ていただきたいと思う。想像以上の費用がかかってしまうのかどうかということについても、協議をしながら進めていけたらと思う。資料やメールなどではなく顔と顔を合わせて話し合っていかなければ、本音が聞けない部分、問題解決できない部分がたくさんあると思うので、そういう形で進めていただければと思っている。

時期の重複についてだが、個人の意見とはいえ、そんな簡単には発言はでき

ないと感じたのが正直なところである。2つ同時に進めることがすごく不安でしかないという意見しか思いつかなくて申し訳ないが、新しい問題などやってみて気がついたということがあるといけないので、やはりよく相談した上で、どちらか一方を先に進めるという選択の方がいいのではないかとしか、今は申し上げられない。

**秋山委員**：池小の小規模特認校については、ぜひ積極的に継続の方向で検討をしていただきたいと思う。色々な事情を持つ子供が、池の稲作や、色々な普段学校では経験できない活動を通じて、リカバリーしてもらうような施設を伊東市として持ち続けることの意義はかなり大きいと思う。色々な児童数の推移の中で、そういう小規模特認校の子供たちの数が減ることは、ある意味、前向きに良いことだと思っている。家庭の問題なのか、子供の精神的な問題なのかかわからないが、そういう子供たちの数がこういう特認校があることによって減少していくことは、正に成果の表れだと思う。極論を言うと、伊東市としては、できれば最後の1人までそういった子供たちにもしっかり目を向けてフォローすることを検討していただきたいと思う。

2つ目の城ヶ崎分校についてだが、環境は素晴らしいと思う。改修か建替えかも、イニシャルコストとランニングコストの双方の観点で、両方を比較して、どちらがいいのか。どうしても国立公園の特別地域内にある施設なので、割と平面で横に長い施設になり、先生方の色々な管理運営上の観点からいっても、効率はそれほど良くないのかと思うが、周辺の住民の方々にも配慮した建替えを検討していただいて、空いたスペースで可能であれば、防災施設や伊東市の色々な拠点になるような役割を果たせないかどうか、そういった部分もできれば検討していただけたらと思う。

最後に、宇佐美エリアと対島エリアについてだが、個人としては宇佐美を優

先するべきだと思う。先般、話が出ている認定こども園については、色々な意見の中で、まずは耐震の性能を満たさない保育園のハード面を緊急的に1日でも早く対処する姿勢はすごく共感を持っていて、同じ観点で、特に宇佐美中は昭和46年築で築56年経過していて、南小の建物の次に古い。子供の安全と安心の観点で、認定こども園についての考えを市長がお示しいただいた延長線で、宇佐美中の安全を配慮しながら、まずは宇佐美地区を中心に進めていくことは、少なくとも重要な考え方の1つかと思う。

**市長：**皆様の意見を尊重したいと思っている。今述べられたことは全て納得している。

例えば宇佐美中学校の場合には、だいぶ老朽化が進んでいることもあるので、建物についても建て直すことを中心に考えていくとそれなりの期間も必要で、建替え中にどのように授業を進めるかという大きな問題がある。簡単ではないと思うが、しっかり参考にさせていただきたいと思う。

認定こども園については、短期間で4,000人以上の方が基本的には賛成できないという大変重い署名をいただき、一旦白紙に戻して立ち止まって考えることとした。なおかつ、宇佐美保育園は耐震基準に達していないということで、なるべく早く移転させるということを、今、事務局が検討を始めた。これについては、私の発言として、伊東市の方針として、改めてまた方向性を出していくことにした。

それでは、意見が終了したので、伊東市立小中学校の規模および配置の適正化に向けた基本方針（後期方針）（案）について、教育委員の皆様として、大きな差異がなかったと捉えている。内容について特に修正すべきではないという意見でよろしいかと思ったが、何か発言あればいかがか。

**遠山委員：**資料の最後に、検討プロセス、関連図がある。今後のスケジュール

も別にいただいているが、市民の皆様、特にこれから小学校に通う保護者の方がどういう経過で進んでいくのか、もっと言うところでは意見を集約してもらえるのかということは気になっていると思う。その各地域の保護者の方の意見がちゃんと伝わって、それを踏まえた上で進んでいくことだということが、市民の皆様の安心感に繋がるのではないかと考えている。

もう少し分かりやすい形で市民の皆様に、こういう形で進んでいく、皆様の意見も聞いた上で、専門家の方々も意見をいただいて、総合的に判断して進んでいくものだから、一緒に安心して作っていきましょうというようなプロセスや日程的なことなどを広く周知していくことが、みんなで作っていくという雰囲気であったり、皆様の理解に繋がっていくと思う。この辺りの周知をぜひ大切にいただけたらありがたいと思う。

**市長：**基本的には、地域協議会あるいは、コミュニティスクールのある学校についてはスクールで、丁寧な説明が必要だと思う。意見も色々と反映できるようにしたいと思っているので、その点についてはよく承知をする。

**杉山次長兼教育総務課長：**その表の中で説明させていただくと、①の諮問、②の答申の段階は既に終わっている。本日の総合教育会議の中で、市長と教育委員で話をされている。

方針案としてまずは作り上げて、市議会やパブリックコメント、また、地域の方に説明をしていくのは、これから始まる場所である。段階的、時間的に間に合うかわからないが、急いで取り組まないといけない地域とそうでない地域がある。今後、複数年、例えば5年とか10年のスパンの中で進めていくので、その中で地域の方には十分説明をして、いただいた意見の中で共に作り上げていくというような形を考えている。

**市長：**本日の協議を踏まえて、基本方針（後期方針）の決定に向けては、配付

資料の伊東市立小中学校の規模と配置の適正化の今後の進め方に沿って丁寧に進めていただき、特に各地区の説明会については、丁寧かつ適切な時期に実施していただくようお願いをしたいと思う。

**市長：**それでは、次に、議題（２）「その他」にまいる。

意見等があればお願いします。

**遠山委員：**先ほど定例会の中で、南小学校の補修の件を聞き、早速に対応いただけてありがたいと思った。各学校がかなりの年数を経ている。今回は実際に壁が崩れ落ちてしまった所があったが、何かあってからだとまずいので、統合の問題も大きなことだが、既存の学校の安全面については、ぜひ一緒に丁寧に進めていただけたらありがたいと思う。

**秋山委員：**新図書館についてであるが、色々な意見が出ていることは承知している。その中で、前向きに進んでいることを前提に、応援をするつもりで話したいが、子供たちもさることながら、生涯学習の場だから、伊東市民の方が積極的に利用できる施設になると考えていると思う。ただ、伊東市は南北に広い市なので、小中学生、幼稚園、保育園の子供たちがそこを利用する頻度に濃淡があると思うので、できれば、ぜひ小中学校の学校単位で図書館を利用したカリキュラムなど、スクールバスなども活用しながら、学校の色々な行事の中で図書館に積極的に触れてもらえる計画をぜひお願いしたいと思う。

**市長：**学校の補修については、南小は今年度やることになっている。学校が休みの期間の施工ということがあり、なかなかすぐにはいかない。特別教室のエアコンも前年度にやり終える予定だったが、ずれ込んでおり、1学期中には無理かと思うが、どんどん進めていく。

新図書館も、まだ意見が色々ある方はいるが、7年間かけてここまできて、今、入札の公告で業者が色々手を挙げるかどうかという大事な時期になった。

入札まで1か月半ほどになり、順調に進んでいけば3年後には開館になる。学習の場として提供することはもちろん、私としては、市民の皆様あるいは観光で訪れた皆様が、こんな素敵な施設が伊東にはあることを認識していただくために、1階にはカフェが入る予定で、2階のゾーンも、外は子供たちの遊具を置いて遊んでいられる場所、あるいは、中は新聞や雑誌などを配架し、図書館という利用よりは、コミュニティの場、あるいはサードプレイスと呼んでいるが、自宅や家庭と学校などの次に自分が身を置く、すごく過ごしやすい場所であるという風に使っていただくことがコンセプトである。3階は小中学生や親子を対象としたゾーンで、小さなお子様のキッズコーナーも設けて、どちらかというと賑やかな絵本を読むようなゾーンであるが、4階の書庫を通り過ぎると、5階は静寂な従来の図書館のゾーンになる。図書も充実をさせていって、文化度を高めていきたい。現在のお子さんが大人になって伊東でも子育てがしやすいと感じる夢を持っていただけるようなもの、市民の皆様、あるいは観光で来た方が、楽しんでいただけるようなものにしたい。国の補助が半額弱あるので、このとても大きなチャンスを生かしていくよう、入札に向けて準備をしっかりしていきたいと思っている。

**教育長**：教育委員の皆様には、総合教育会議だけではなく、教育委員会定例会の中でも、本当に真剣に議論していただいた。特に今の子供たちのこと、それから、これからの子供たちのことについて、様々な視点を持ちながら議論をしていただいた。その中でまず、教育委員会としても、やはり保護者の声、それから地域の声を丁寧に聞きながら、御理解と御協力を得ていくことが一番大切ではないかと思った。丁寧に、それから慎重に、子供たちのことを第一に考えながら、今後進めていきたいと思っている。

進めていくに当たって、子供たちが生活を送っている学校と教育委員会が、

子供たちのことを第一に考えながら、一丸となって進んでいくことも必要であると思う。子供たちが自分たちの力で良い学校を作っていくと、これからのいい社会を作っていくと、そのような強い気持ちを持って伊東の子供が生活していくことを願っている。教育委員会としても、全力で子供たちを支援していきたいと思う。学校長を中心にしっかりとした学びを作りながら、学校の統合の機会を通じて一緒に進めていきたいと思う。

結びになるが、市の当局におかれては、協議の中での提案に対して関係各課のさらなる御協力を賜りますようお願いしたい。

**市長**：事務局から何かあるか。

**事務局**：基本方針および後期方針の策定の段階で、8月に総合教育会議を開催したいので、よろしくようお願いしたい。

**市長**：これで本日の伊東市総合教育会議を終了する。